

祭りに酔いしれる。

# 炎

8月

**33 火おんどり** 新城ICより約1.3km  
ひおんどり

長篠・設楽原の戦いの1万を越える戦死者の供養は、今の世まで大切に受け継がれており、毎年8月15日の夜に行う盆行事「火おんどり」は、厳かな種火の行列に始まり、3mもの大松明を振りかざす勇壮なフィナーレで最高潮の時を迎えます。

## しんしろ 戦国絵巻 三部作

33



34



35

**5月 34 長篠合戦のぼりまつり** 新城ICより約2.6km  
ながしのかっせんのぼりまつり

長篠・設楽原の戦いで戦死した両軍の将士の霊を慰めるために、関係将士の紋入りのぼり数千本を献植して行うまつり。鎧・兜に身を固めた砲術隊による火縄銃の演武、勇壮な合戦行列などが毎年5月5日に盛大に開催されます。

**5月 35 作手古城まつり** 新城ICより約21.4km  
つくでこじょうまつり

5月第2日曜日に龜山城跡付近で開かれるおまつり。長篠・設楽原鉄砲隊による火縄銃の演武をはじめ、句会・歌会・野点など風雅を楽しむことができるおまつりです。

**6月 36 設楽原決戦場まつり** 新城ICより約1.8km  
したらがはらけっせんじょうまつり

日本で初めて大量の鉄砲が使われた長篠・設楽原の戦い。その設楽原古戦場を舞台に火縄銃の演武や小・中学生による武者行列、子供武者による馬防柵演武などが行われ、当時の様子が再現されます。



37

**37 大海の放下** 新城ICより約3km  
おおみのほうた

8月14日・15日の夜、背中に高さ2.1mの大団扇を背負い、腹には直径50cmの太鼓を抱えて初盆の家々を周り、庭先で鉦と太鼓の静かなリズムに合わせて舞う盆行事です。

**38 乗本万灯** 新城ICより約3.8km  
のりもとまんどう

毎年8月15日の夜、精霊送りと悪霊鎮めの意味を込めて行われ、市内竹広地区の火おんどりと並び火を使う盆行事です。さらしを巻き足にはわらじを履いた勇壮な若者が、5.6mの縄の先につけられた万灯(麦わらで作製)を力強く頭上で振り回します。

**39 鍋づる万灯** 新城ICより約4km  
なべづるまんどう

毎年8月15日の夜、大きな松明を山の斜面に立て、一斉に点火する万灯祭が行われます。明々と燃える松明が、鍋弦の形をしていることから「なべづる」万灯と呼ばれ、京都の大文字焼きと同じく精霊送りの行事です。

**40 富永神社例大祭** 新城ICより約4.7km  
とみながしんじやれいたいさい

3日間にわたって繰り広げられる富永神社の祭りでは、江戸時代から伝わる町衆による能、さざ踊り、稚児などの伝統的な芸能が町ごとに披露され、勇壮なやぐらの練りこみ、手筒花火の奉納などの賑わいで街中が昼も夜も祭り一色の雰囲気となります。



38



39



41

## 新城の芸能

奥三河地域には、多くの民俗芸能が伝えられており、全国的にも有名な無形民俗文化財が集中しています。「三河田楽」として知られている「鳳来寺田楽」をはじめとして、富永神社の「祭礼能」や「はねこみ」「名越神楽」などの民俗芸能が今なお受け継がれています。

**41 新城薪能** 新城ICより約5.4km  
しんしろたきぎのう

町衆によって受け継がれてきた、伝統芸能「能・狂言」です。全国的にも、町衆だけによる演能は大変珍しいといわれています。夏に行われる幻想的な伝統芸能です。



**42 鳳来寺田楽** 新城ICより約14.3km  
ほうらいじでんがく

毎年1月3日、鳳来寺の田楽堂で演じられる田楽で「三河の三田楽」の一つ。この鳳来寺田楽は鳳来寺が扶持を与えて田楽衆に奉仕させたので、寺田楽ともいわれています。国の重要無形文化財に指定されています。